

# 各市、県の取組内容

# 【加古川市】 災害情報伝達システムの構築について

## ○住民等への情報伝達の体制や方法の整備

- ・平成29年度の総務省消防庁の実証事業の成果を活かして、屋外拡声器や遠隔解錠装置の追加整備を実施
- ・既設のモーターサイレンの遠隔起動を実現（平成31年度にJ-ALERT連携を予定）
- ・SigFoxを活用したアンサーバックシステムを構築

防災ラジオ



町内会長や消防団員、指定避難所へ配布した防災ラジオへの災害情報の配信を開始(約500台)

屋外拡声器



河川氾濫や津波が想定される地域に屋外拡声器を整備(15箇所)

遠隔解錠装置



津波や土砂災害を想定した避難所に遠隔解錠装置を整備(16箇所)

モーターサイレン



既設のモーターサイレンに遠隔起動装置を整備(9箇所)

通信

スマートフォンアプリ



災害情報

情報入力システム



- ・様々な災害情報伝達手段に一括して入力
- ・エリア(大字)、グループ指定による細やかな伝達範囲指定
- ・大規模災害時にも利用可能なクラウド型
- ・「放送」と「通信」を利用した情報伝達の冗長化

V-Lowマルチメディア放送

V-Lowマルチメディア放送(i-dio)を活用した、自治体防災情報放送サービス



V-ALERT

アンサーバック

SigFox(LPWAの一種)を活用したアンサーバックシステム

## 取組を実施した効果、成果

- ・災害情報入力の一元化により、複数の伝達手段で迅速な情報提供が可能となった（情報入力システム）  
※平成30年7月豪雨、台風第20・21号で、防災ラジオ、かこがわ防災アプリへの情報伝達を実施
- ・津波及び土砂災害時に迅速な避難所の解錠が可能となった（遠隔解錠装置）
- ・消防署設置のモーターサイレン（9基）の一斉起動で、市内全域へ緊急情報の伝達が可能となった

# 【加古川市】地域防災力向上に向けた取組みについて

## ○出前講座の実施、地域防災マップの作成支援

- ・ハザードマップを用いた出前講座等により、各地区の特性に沿った防災対策や、自助・共助についての普及啓発を行った。
- ・まちあるきやワークショップなどを通じて、地区防災マップの作成支援を実施した。



各種ハザードマップを掲載



まちあるき



マップ作成報告会



地区防災マップの一例

## 取組を実施した効果、成果

- ・住民自身が、「災害時に誰が、何を、どのようにするべきか」等、地域の災害について真剣に考え、学び、話し合う機会となり、防災意識の向上につなげることができた。
- ・まちあるきなどにより、地域コミュニティが活性化されることで、住民の自助・共助に対する理解が深まった。

# 【高砂市】避難所運営力強化に向けた取り組みについて

## ○避難所運営訓練の実施

地域住民が主体となった避難所運営訓練を実施

- ・平成30年11月4日に実施した高砂市総合防災訓練において、地域住民が自主防災会や消防団の誘導のもと、指定避難所である伊保南小学校への避難訓練を行った。
- ・その後49名の地域住民が市職員と連携し、避難者カードの集計、避難所内レイアウトの決定、段ボールベットや簡易トイレの組立等を各運営班に分かれて実践する避難所運営訓練を行った。



## 取組を実施した効果、成果

各運営班に分かれて訓練を実施することにより、それぞれの役割を認識するとともに、避難所運営の流れを確認することができた。多くの参加者から、訓練を重ねる必要があるとの意見が寄せられ、防災意識の高揚を図ることができた。

# 【高砂市】避難所運営力強化に向けた取り組みについて

## ○防災とボランティア週間関連事業

消防庁の「災害伝承語り部派遣」事業を活用した研修会を開催



- ・東日本大震災時に、被災地支援のために立ち上げられた沿岸被災地後方支援室長を務めた元岩手県遠野市職員を語り部として招き、防災研修会を開催した。
- ・自主防災会・災害時支援ボランティア・避難所運営担当市職員等が参加するなか、避難所運営や発災直後の災害対応等についての認識を深めることができた。



## 取組を実施した効果、成果

### ○研修参加者へのアンケート調査の結果

- ・甚大な災害を目の当たりにした体験者の講演で、研修参加者がそれぞれ自助・共助・公助の協働について認識を深めることができた。
- ・女性に配慮した避難所運営や官民連携による災害対応の必要性を認識することができた。

# 【高砂市】 継続した地域の防災力強化に向けた取り組みについて

## ○地区別防災マップの作成支援

迅速かつ的確な避難を促進するための防災出前講座の実施



## ○地域の実情に応じた避難行動の検討

- ・災害種別毎に、どの場所にどのような脅威があるのか。
- ・想定される脅威に対して、どのような避難行動をとるのか。
- ・どのタイミングで避難行動をとることが望ましいのか。

## 取組を実施した効果、成果

- ・避難のタイミングや安全な経路を知ることができた。
- ・地域独自の防災マップを自分達で作成したことにより、防災に対する意識が高まった。また、防災マップの作成を通じて地域コミュニティの活性化が図られた。



出前講座の風景



牛谷団地防災マップ



北脇地区防災マップ

# 【小野市】 中小河川の水位監視体制強化について

## ○水位監視体制について

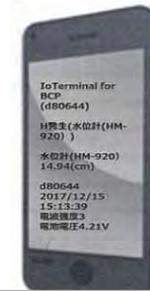
### 中小河川の水位監視、地域との水位情報の共有

- ・平成30年8月より市管理河川の粟生川に水位センサーを設置し、試験運用を経て整備を行った。
- ・水位情報や設定水位到達時のメール通知を関係者(市、自治会、近隣の要配慮者利用施設等)と共有し、早期の避難体制、樋門操作・避難情報発令判断等の水防活動に利用。

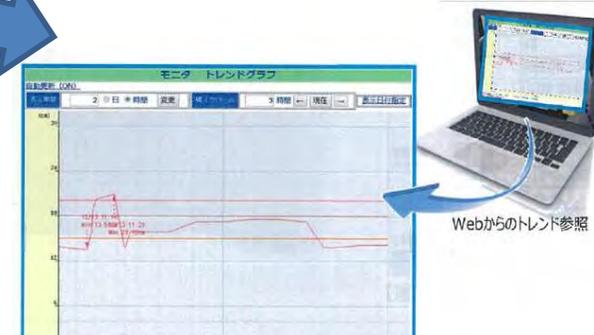


水位センサーを  
内水常襲地域の内水起点  
(樋門呑口)に設置

市、自治会、近隣施設等へ  
情報共有



異常時のメール通知



Webからのトレンド参照

WEB閲覧で現在の状況・傾向を監視

## 取組を実施した効果、成果

- ・内水常襲地域である粟生川周辺の正確な水位把握ができ、地域での適切な樋門操作が可能。
- ・水位上昇状況の把握により、先手管理で内水被害に係る避難勧告等の検討が可能。
- ・水位情報を自治会、近隣の要配慮者利用施設等と共有し、異常水位時にはメール通知が行われるため、早期の避難対策が可能。
- ・自治会や要配慮者利用施設の避難タイムライン作成時に蓄積データの活用が可能。

# 【小野市】災害情報伝達システムの構築について

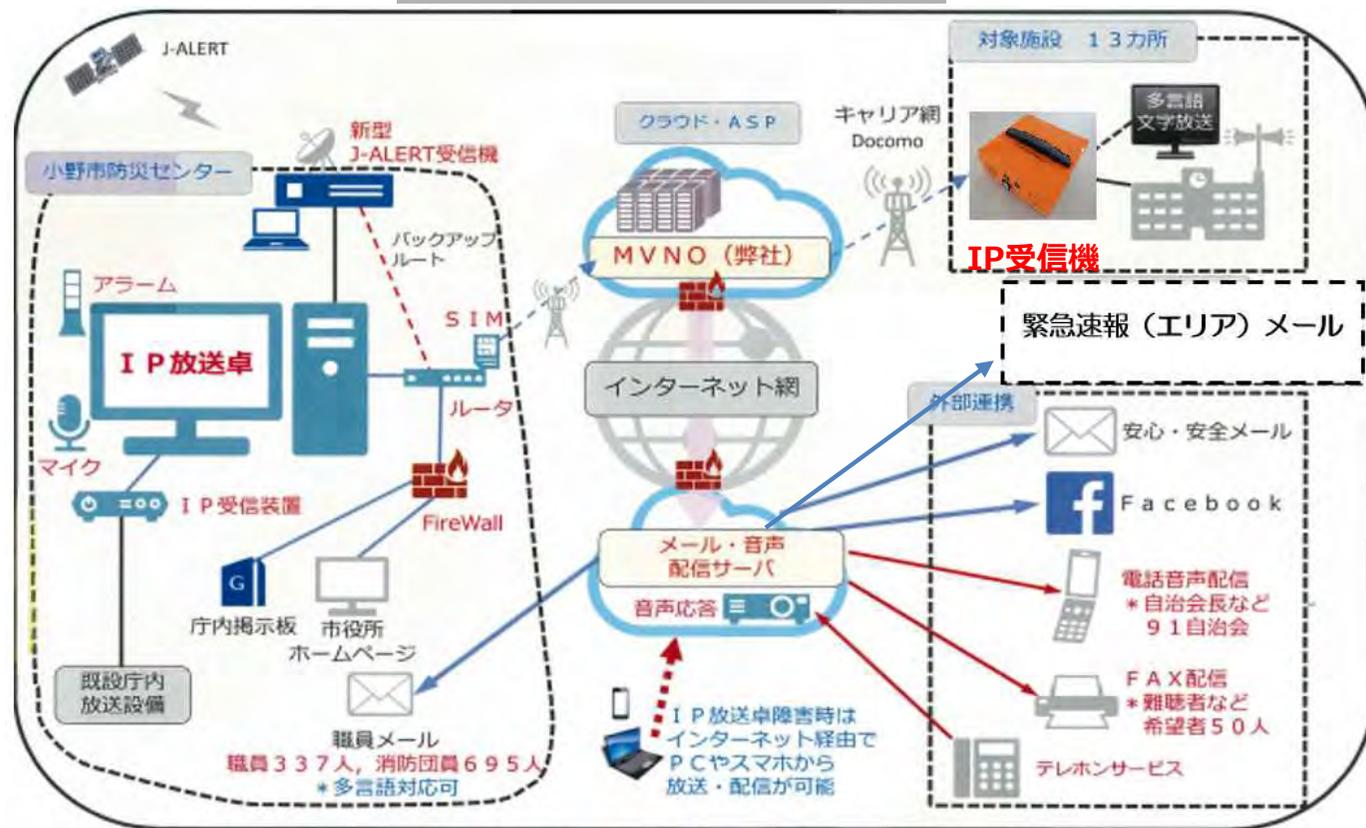
## ○大規模災害時の多様な情報伝達手段の構築

- ・携帯電話のキャリア網を利用した災害時の情報伝達網を整備
- ・Jアラートの緊急情報や水害時の避難勧告等を対象地区の自治会長や避難所となる小中学校等へ迅速に伝達が可能。



IP受信機  
小中学校等避難所に設置、校内放送に連動

システム連携イメージ図



## 取組を実施した効果、成果

- ・Jアラートの緊急情報や水害時の避難勧告等を対象地区の自治会長や、避難所となる小中学校へ一斉・迅速に音声の自動配信による情報伝達が可能
- ・FAXでの避難情報配信が同時にできるため、難聴者等への情報伝達が可能
- ・緊急速報メールや安全安心メールの配信など様々な災害情報伝達手段を一括して入力・配信が可能

# 【小野市】地域の防災力強化に向けた取り組みについて

## ○地域の防災マップの作成、避難行動要支援者の避難支援体制の構築

- ・地域の災害特性を地域住民自らで再認識し、災害時の避難経路を検討
- ・避難行動要支援者名簿をもとに、地域での避難支援体制を構築



住民による検討会議



危険箇所の把握のためのまち歩き

### 取組を実施した効果、成果

- ・地域住民自らがまち歩きや検討会議を行うことにより地域の防災上の危険性について「気づき」たたく「理解」し、いざという時に的確に「判断」ができる体制構築ができた。
- ・地域住民間で危険箇所の抽出や地域の過去に発生した災害等を話し合うことで、防災意識の向上が図れた。

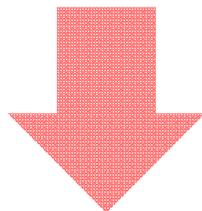


地域の防災マップ

# 【加東市】安取雨水ポンプ場について

## ○内水被害への対策 地域住民の悲願であった雨水ポンプ場の完成

河高の安取地区は一級河川加古川の支川となる安取川の流末であり、過去から豪雨時の内水による浸水被害が発生。平成16年の台風23号では床上12戸、床下8戸の浸水被害が発生。以降も豪雨の度に内水による浸水被害が発生。



地域の方々から一日も早く安全・安心に暮らせる浸水被害対策の強い要望あり。

・市では安取雨水ポンプ場を整備することとし、平成29年度から工事に着手し、同31年3月24日に尽力いただいた議員各位(衆・参国会議員、県会議員、市会議員)をはじめ、国・県など多数の関係者のご臨席を賜り、竣工記念式典を開催しました。

### ポンプ場の概要

項目	内訳	項目	内訳
全体事業費	544百万円	管理棟	鉄筋コンクリート造 1階 床面積 184.96㎡
敷地面積	1,471.56㎡	ポンプ形式	全速全水位型横軸水中ポンプ 2台 ※将来3台
発動発電機	非常用ディーゼル発電機 250kVA 1台	ポンプ計画排水量	3.2㎡/秒(192㎡/分) ※2台による排水量
除塵機	自動式前面かき揚げ背面下降型 1台	ポンプ口径	φ900mm



過去の浸水被害の様子



竣工式のテープカットの様子



ポンプ場全景

### 取組を実施した効果、成果

・近年、全国各地で激甚化、多発化する自然災害が住民生活を脅かしている中、ポンプ場の整備は本市における防災・減災力を高める、災害に強いまちづくりの一環となる。

# 【加東市】避難所体験訓練の実施について

## ○避難所における体験及び訓練

災害時に避難所開設を迅速に行うための訓練と、発災時の避難における市民の意識啓発を目的として避難所体験訓練を開催

実施日：平成30年7月28日

参加者：市内7組20人の親子、避難所開設に携わる市職員17人、加東消防署員、兵庫県震災・学校支援チームEARTH

- ・避難者名簿の作成から、市内の王子コンテナ(株)兵庫工場との災害時応援協定による『ダンボールベッド』の組み立て、市が備蓄しているアルファ化米の炊き出し、市が保有している給水車による給水体験、加東消防署員による応急救護、応急処置体験のほか、兵庫県震災・学校支援チームEARTHによる防災講話などを実施。



応急救護体験



給水体験



ダンボールベッドでの  
アルファ化米の試食

取組を実施した効果、成果

- ・職員においては、避難所開設における一連の流れを体験することで、具体的な行動がイメージできた
- ・参加者においては、避難所生活や様々な体験を通して、災害時避難における備えや自助・共助の大切さを感じることができた。

# 【加東市】 幼稚園と小中学校における「防災給食」の実施について

○加東市学校給食センターは「防災給食」3,100食を提供【市内の全幼稚園、小・中学校】  
児童・生徒が備蓄食品アルファ化米などを取り入れた「防災給食」を味わい、防災意識を高めた。

実施日：平成31年1月17日

対象者：市内すべての幼稚園、小中学校



- ・いつ発生するかわからない災害時には、火や水が使えないことが想定されるため、ご飯やおかずは冷たい保存食を実際に体験した。
- ・当日の献立は、主食のご飯として市が備蓄しているアルファ化米や乾パン及び保存水を活用した。副食は、カルシウム・ビタミン・ミネラルなどを多く含むソーセージやバナナ、牛乳を提供し栄養価も考慮した献立とした。
- ・三草小学校では全校児童73人が避難訓練に続き、アルファ化米の袋にペットボトルの保存水を注ぎ、1時間後の給食の時間に乾パンなどとともに味わった。



アルファ化米(きのこご飯)



保存水を注ぐ児童



保存食の実食

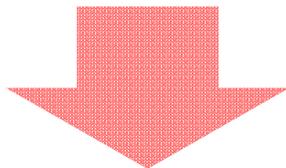
## 取組を実施した効果、成果

- ・アルファ化米は、きのこご飯やひじきご飯などの味付けご飯であり「思っていたより美味しかった」と評判も良かった。

# 【加東市】 民生児童委員への防災研修の実施について

## ○防災意識の啓発

平成31年2月21日に、加東市東条地域の民生児童委員(25名)を対象に防災士を講師として招き、防災研修を実施。



実施日：平成31年2月21日  
対象者：加東市東条地域の民生児童委員(25名)

- ・東条地域における災害発生の可能性や過去の災害の状況などについて、ハザードマップを用いて説明を行い、災害について個人で備えること、地域で備えることや民生委員として災害時要援護者をどのように地域で支えていくかなどの研修を行いました。

### 取組を実施した効果、成果

- ・災害に対する基礎的なことから、個人や地域で備えること、民生委員としての役割など、具体的な事例を交えることでより分かりやすく、より具体的にイメージしてもらうことができた。

# 【兵庫県】 自主防災組織研修について

○避難に関する啓発活動について  
防災情報の活用研修及び避難所やその運営方法などについて研修会を開催



## ■H30年7月 自主防災組織研修

自主防災組織のリーダー等を対象

(加東市滝野文化会館)

(西脇市消防コミュニティセンター)

- ・災害時に自主防災組織が取り組むべき活動内容についての講義
- ・NPO法人兵庫県防災士会へ委託し、避難や避難所で起こる様々な出来事にどう対処するか模擬体験

## ■H30年11月 地域の防災学習会【出前講座】

(高砂市塩市地区)

- ・最近の災害発生状況や加古川の浸水想定区域などを紹介するとともに、避難の重要性について講義

## 取組を実施した効果、成果

防災情報や身近な災害事例を想起することで、自主防災や避難の重要性について認識を強めた。



自主防災組織研修会(加東会場)



自主防災組織研修会(西脇会場)

# 【兵庫県】 総合治水に関する普及啓発活動について

## ○総合治水の普及啓発

総合治水に関する出前講座やジオラマ模型を使った実験の実施



■H30年5月 ジュニア防災スクール【総合治水出前講座】  
(高砂市立伊保小学校)

■H30年10月 ジュニア防災スクール【総合治水出前講座】  
(加東市立福田小学校)

- ・防災学習でジオラマ模型による「ためる」、「浸透する」  
対策の役割や効果を体感！

■H30年10月 防災避難訓練【ブース展示と模型実験】  
(兵庫県立社高等学校)

■H30年11月 土木の日イベント【ブース展示と模型実験】  
(兵庫県立播磨中央公園)

- ・近年の災害発生状況及び、ため池やグランドなどに雨水をためる流域対策の重要性について理解を深めた

## 取組を実施した効果、成果

防災情報や防災学習によって自ら体験・体感することで総合治水に関する知識を深めることができた。



総合治水模型実験(高砂市立伊保小学校)



総合治水パネル展示と模型実験(兵庫県立社高等学校)